



人と自然が育む、循環型の未来へ

大久野通信

vol.36

残暑見舞い

9月に入っても、依然として暑い日が続いています。

さすがに体は慣れてきましたが、溜まった疲れで体調を崩すのもこの時期です。周囲を杉林に囲まれた活動拠点は市街地に比べ気温が2〜3℃低く、山から吹き下ろす風とも相まって木陰での休憩は比較的快適です。屋外作業は午前中まで、小まめに日陰で休憩を挟む、残暑が続く季節の作業は無理をしないようにしています。

INDEX

01 涼をはこぶ水流

02 新たな課題

03 今後の展望



01

涼をはこぶ水流

雑草が影を潜める真冬から春先に掛けて、活動拠点脇の沢を整備しました。

今年の夏は適度に雨が降っているので、山から湧き出す水が涼風と共にこの沢を流れています。竹林が木陰を作るエリアは、竹製の簀子を渡せば京都の納涼床のような遊び場が出来そうな雰囲気です。

雑草が収まる冬場に取り組んでみようかと思っています。



冬から春先に整備した沢



自生植物が適度に覆う里山の風景に



02

新たな課題

昨年の反省を踏まえ、蔓が自由に成長できる様に工夫したスイカ畑は、蔓の損傷を躊躇して放置したのが裏目に出ました。ネットの中は雑草で埋め尽くされてしまい、スイカの蔓はそこから逃げる様にネットの外へ。スイカ畑ならぬ雑草畑の様相です。雑草を生やさない様にして畑の範囲内にスイカが育つ様にする、当たり前の話ですが来年の新たな課題ができました。



ネットを浮かし蔓の成長空間を確保



雑草畑と化したスイカ畑



03

今後の展望

北総クルベジの喜屋武代表と4か月ぶりに交流しました。北総クルベジさんは、竹林整備とカーボンオフセットを結びつけた地域循環型農業を実践されています。育てた作物は、地球を冷やす野菜(クルベジ)として販売し成功されている、いわば農業のプロ集団です。弊社の有機肥料RBSゴールドを茄子の栽培に使って非常に調子が良かった、との評価を頂きました。秋にはキャベツで試用して頂けるそうです。大久野倶楽部でもRBSゴールドの評価に取り組んできましたが、農業初心者ゆえの失敗で評価まで至らないことがよくありました。また、自分たちの評価結果がプロに認められるのか不安もありましたので、当り前に生産しているプロの目で評価頂けるのは大変貴重です。喜屋武代表は RBSゴールド に興味を示されており、2kg程度の小袋にしてみたら?バイオ炭を入れRBSゴールド派生品としたら?それに土を加えてプランター栽培用の培養土を作ってみたら?などいろいろなアイデアを頂きました。サンプルを準備して、北総クルベジさんにご協力を仰ぎながら商品化の可能性を探って行きます。